

## はじめに

皆さん、こんにちは。分子認知科学者と自称している石浦です。はじめまして。羊土社から生命科学講義本「遺伝子が処方する脳と身体のビタミン」を最後に出版していただいてから、十年以上経過しました。前著を読んでいた皆さんからすると、まだ相変わらず同じことをやっているのかと、お思いいなっているかもしれません。出版に至った経緯を述べたいと思います。ご存知のように、二〇二〇年は新型コロナウイルス蔓延の年と記憶されることになりました。授業はほとんどリモートになり、たまたまやる人がいなかった一、二年生文理学生向けの生命科学の講義をやってくれと頼まれ、すべて収録してオンデマンドで視聴する形式で半年の講義を行うことになりました。

私は高校生物教科書の著者でもあるので、生物履修生と非履修生の間には知識の開きがあることを知っており、DNAやタンパク質を説明する際にもなるべく専門用語を用いないように、しかも最新の生命科学の核心を伝えたいと考えていたので、口語調のやさしい講義を行うことにしました。それを書籍化したのが本書です。実際に行ったのは一四回ですが、本書には羊土社の希望でそのいくつかを改変して収録しました。羊土社からは「小説みたいに楽しく読める生命科学講義」という題をご提案いただき、私の意図とも合致したので、そう

させていただきました。同志社の先生は、1. 遺伝子、2. タンパク質、3. 細胞、4. 代謝……という講義を期待していたのかもしれないませんが、残念ながらそうはいきませんでした。

だいたい教員は歳とともに頭が固くなっており、新しいことにチャレンジできなくなつて、同じような講義を行うことがわかつています。私は、京都に単身赴任していて研究室までの通勤一時間は座つて本が読める状態だったので、理系の新書や文庫に親しむことができませんでした。皆さんも、ぜひ、このような「時間だけはあり余っている生活」を有意義に過ごされると思います。私の場合、その時期に何が起つたかというところ、生命科学と歴史の話にはまってしまったのです。本書の天皇家（本当に興味があるのは血族結婚と遺伝）の話などは、読めば読むほど興味深いものがあります。その私を感じた興奮を少しでも伝えることができれば嬉しく思いますし、生命科学に興味をもってもらつて新しい方法かとも思い、講義に取り入れた次第です。

本書では、詳しい生命科学の言葉の説明は少し省いてあります。もちろん詳細は成書（特に羊土社の教科書）にあつていただきたいのですが、生命科学を学ぶ本質は自分の健康や地球上の生命に思いをはせることであり、社会の情勢や倫理概念とは無関係でないこと、決して細かい専門用語や公式を覚えることではないということを生命科学になじみのない方にわかつてほしいというのが著者の考えです。お読みになつていただいて、私の狙いが成功したかどうか判断いただければ幸いです。